

ふるさとの 其の44 誇り

内藤多仲博士のごころにふれる

円宝寺と博士ゆかりの仏様



円宝寺



内藤多仲博士



日蓮上人坐像



日蓮上人坐像台座裏の銘文
「円宝寺に妹かつじの追善為
昭和三十七年十二月
内藤多仲」と記されています。



慈母観音立像光背裏の銘文
博士の母への想いが記されます。



慈母観音立像 作者は彫刻家の西山如拙

※ここに紹介した慈母観音像や
日蓮上人坐像は、通常一般公開
されているものではありません。

博士は生前、今日の自分があるのは、「祖母や父母が犠牲になり、多仲を一人前に、この一念が神仏に通じての賜と思はれます」と振り返っています。円宝寺のお堂と仏様は、その博士の深い信仰と、自らを育ててくれた家族やふるさとへの愛情を私たちに教えてくれます。

平成23年度(2011)には、博士の代表作である東京タワーも電波塔としての一線を退き、県内でも博士の設計指導した甲府市役所本庁舎の解体がはじまりました。時代や耐用年数を考えれば、致し方ないことはいえ少し寂しい気もします。

このような中、私たちは、今後とも市内に残る偉大な建築学者の足跡と、世界的な建築学者を生んだふるさとの豊かな歴史を守り伝えて参りたいと思います。

南アルプス市曲輪田の円宝寺。静かな集落の中にあるお寺ですが、普通のお寺とは一風変わったモダンな外観が目をひきます。

このお堂を設計建築したのは内藤多仲人博士。ここ曲輪田で生まれ、東京タワーの設計を行うなど、日本を代表する建築学者として知られています。

お堂は、昭和37年(1962)、博士が自らの喜寿(77歳)の節目として、ふるさとへの思いを込めて建立したものです。

お寺には、このとき博士が奉納した仏様も遺されています。一体は、若くして亡くなった博士の母への思いを込めた慈母観音立像。もう一体は、博士が亡くなった妹の供養の為にとめた日蓮上人の坐像です。